

【テーマ】 協同出版株式会社

「教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業 (教員採用選考試験の複数回実施を想定したモデル問題の開発)」

調査の概要

◆課題認識

・主に大学3年生を対象とした教員採用試験における「思考力、判断力、表現力等」を問う良質な問題を、主に教職教養でどのようにするかが課題

◆調査研究の目的

・「思考力、判断力、表現力等」を測る良質な問題の作成

◆調査研究の方法

・全国の良問より問題構成を検討する。

◆調査研究

・文部科学省様、各教育委員会担当者様の意見を反映した問題を作成する。

◆現状

・現状の教職・一般教養の問題において、特に教職教養は知識問題となりがちである。教職教養では思考力、判断力、表現力等を問う問題の作成が非常に難しい。

・過年度の結果より想定より正答率が低い傾向であるが、思考力・判断力・表現力等を問う問題の作成と、正答率を上げる工夫が非常に難しい。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ① 全国の出題傾向から出題分野、問題内容の構成を検討し、その各領域の内容で、「思考力、判断力、表現力等」を問う内容の問題にするか。
- ② 一般教養において、英語、数学、理科、社会の分野で構成し、幅広い内容で「思考力、判断力、表現力等」を問う。

◆成果

受験対象者の中に大学3年生ということ意識し難易度のある程度調整する必要があり、選択肢文による問題、穴埋めの組み合わせによる問題等を組み合わせた問題とした。

実際に令和7年12月14日(日)の同一試験日で本事業で作成した問題を使用した。

今後の課題

今回の問題と今後の課題

- ・今回の試験問題の作成は、小学校受験者を対象としたものに限らず、中学校、高等学校等の志望者も対象にするものとなった(学習指導要領の問題を校種別化)。また、受験者も大学3年生に限らないケースもあった。